

財団ニュース

昭和52年度才三号



財団法人
山田科学振興財団

春が近付いて参りました。財団の設立後丁度ノケ年に成ります。

お蔭様を持ちまして、研究援助も決定し、年度末評議員会及び理事会も終了いたしまして、初年度事業の大半をおえたこととなります。

さて、今回は、昨年ノノ月末の第2号に次ぎ、其の後の状況をとりとまとめた財団ニュース第3号をお届けいたします。

昭和53年3月ノ5日

山田科学振興財団事務局

業務及び事務報告

1. 昭和52年度研究援助の決定

昭和52年11月19日

第2回選考委員会・・・審判に関する打合せ

昭和52年12月17日

第3回選考委員会・・・審判決定；委員長より理事会へ報告提出

昭和53年1月20日

第3回臨時理事会・・・報告を承認

昭和53年2月18日

第2回評議員会・・・・決定、発表

第2回理事会

32学会より推薦申請77件、内21件へ総額1億2,370万円援助を行います。

関係者へは既に通知済み、手続き等打合せ中で、援助金は7月と12月に届けます。

贈呈式は行わず、これにかえて年度末(54/3)又は年度明け(54/4～5)に成果報告会を予定しています。

2. 上記以外の年度内の諸援助は、全部決定済みです。

3. 明年度の事業に関するメモ

イ、事業計画・予算・日程に就て

○新年度の事業計画は概ね本年度と同様の活動に加え、新事

業として、山田コンファレンス（予算額770万円、別項
4.参照）、及び長期の招へい・派遣（1,000万円予定）
を行います。

○日程は未確定の部分も残っていますが、一応別添した事業
活動予定表の如くです。

ロ、研究援助以外の援助に就て

本年度の経験をふまえて、次のような変更を加えました。

○長期招へい及び派遣を試みる。

○一般集会の重点的選考を試みる。

○募集に~~レ~~切り期日制を導入する。

○これに伴う新申請様式は、昨年末関係方面へ通知済みで、
予算は2月/8日ご承認願いましたとおりです。

○新様式による2月末現在の援助申請件数は次の如くです。

短期派遣	48件
長期派遣	38件
短期招へい	7件
集 会	14件

ハ、研究援助に就て

○指定学会に3学会を加えまして、計35学（協）会となり
ました。

○同じ研究者が、同一内容の研究を異なる援助者へ重複して
援助申請している事が分明するように、記載方式を改めた
申請書を採用します。

この申請書類は年度内に各研究機関宛発送。

○年末に行う審判を能率化して翌年/月中に内示するように
事務局は工夫する。

4. 新事業「山田コンファレンス」に就て

事業計画の4に該当する財団主催の、いわゆる「山田コンファレンス」の構想については、昨年8月13日第3回選考打合せ会の席上、永宮・神谷両理事より具体案の示唆があり、その後、10月26日の第1回臨時評議員会・第2回臨時理事会（一部財団ニュース第2号、8頁に記録掲載）、12月18日の第6回選考打合せ会で検討された上、1月20日の第3回臨時理事会の席上承認をうけ、ここに第1回目の「山田コンファレンス」の実施に踏切ることと成りました。会議の内容、予算などは2月18日の評議員会でごらんに入れた通りで、会の承認の返事と、席上賜ったご意見は組織委員長へ伝達済みです、近く先き行きの計画と問題点の解決につき組織委員長と打ち合せを始めます。

5. 提案メモ

各種会議の席上、折にふれて述べられましたご意見、ご提案をメモしたものに次のようなものがあります。今後のご討議のご参考までに列挙して見ました。

- イ 研究援助に学会推薦以外の推薦制を考慮されたい。
- ロ 集会の援助に追加募集ができるよう配慮するか、年2回募集によるオーバーラップ制を考慮されたい。
- ハ 緊急又は臨機援助を主目的として活用出来る事業費措置を希望する。
- ニ 財源を他に求めにくい「ドクターコースの在學生」の長期派遣に対する援助を考慮されたい。

ホ 長期派遣又は集会の審判は成るべく早くおえるように希望する。

後 記

今回の表紙にデザインいたしておりますマークは財団のシンボルマークの一案でございます。ご意見、ご批判がございましたらご返信いただければ幸甚に存じます。